



オーレ!
Oié!



SHIMIZU
S-PULSE



スタジアムでこそ見ごたえのあるサッカーを

株式会社エスパルス 代表取締役社長 左伴繁雄さん



© S-PULSE

年商の半分以上が企業協賛

昨年、お約束通り1年でJ1に戻ることができました。サポーターや市民の皆様への熱い応援があった、それが選手を接するにひととち、後半の快進撃につながり、J1でも戦えるようなサッカーをJ2で熟成することができました。

経営者として財務的に見ますと、J2に降格したサッカークラブは、そのままJ2に滞留してしまう会社とJ1に戻っていく会社に分かれます。J2に降格すると、年商を落とさずに強化費を維持することが難しく、来場者やJリーグからの分配金が減り、年商の1割がダウンしてしまいます。そこをしっかりとカバーできた会社がJ1に戻れる資格を得る会社になります。1年前、エスパルスは、その分岐点にいました。

エスパルスの場合、Jリーグのクラブでは珍しいケースですが、年商の半分以上の収入を協賛という形で経済界の皆様が早々と支えてくださいました。その支えが無ければ、現在の戦力は維持できなかったでしょうし、戦力が維持できなければ、後半ご覧いただいたようなサッカーはできなかったでしょう。1年でJ1に戻れるかどうかの分岐点を経済界の皆様が支えていただいたと感じております。本当にありがとうございます。

最初の10試合が大事

今シーズンはJ1に戻りましたので、一定の財源が見込めます。強化費も、いままでも一番大きな予算を組むことができ、昨年、J1での戦いを前提としたサッカーをしていて、若干の疑問が残るポジションについても、ある程度の補強ができました。

昨年は、選手の走り込みができていないということ、小林監督がキャンプの前にミニキャンプを張りました。昨年は全員が脱落していた練習メニューを、今年の沖繩キャンプでは、全員が軽い感じでごこなして、予定に無かったボールを使った練習もしています。「良い仕上がりで、怪我が怖いくらい」と聞いています。

平均年齢が26歳という若い陣容でJ1に戻ったクラブは過去にありませんので、開幕から最初の10試合が大事な試合になります。昨年は、クラブタイ記録の9連勝をしているのですが、シーズンをまたいで、もうひとつ開幕試合を取りにいこうと、現場も会社も一丸となつて、シーズン開幕にむけて取り組んでいる昨今です。

そうしたなかで、皆様方には、協賛をしていただき、シーズンシートを買っていただいております。シーズンシートは過去最高のスピードでお買い求めいただいております。エスパルスに対して非常に関心をもっていただいております。その期待に応えていかなければという気持ちで取り組んでいます。

新しいシーズンをむかえるエスパルスのサッカーは、スタジアムでこそ見ごたえのあるサッカーです。小林監督以下、選手は、スタジアムで皆様とお会いする時に半端なプレーや試合をしないように心がけていますので、ぜひ、スタジアムにお運びいただき、ご覧いただければと思います。

育成部門に注力する

昨年、育成の重要性についてお話ししました。皆様から「アカデミー支援パートナー」として協賛をいただき、ジュニアユースは3冠を取り、ユースはカップ戦で準優勝することができました。

今年は、育成の予算を例年より増やして、新しいコーチの雇用や、海外遠征の経験、全力テグラーでの食育の充実など、成長途上の子供たちを支援して、トップチームむぎのアスリート育てる努力をします。育成にも、ぜひ関心をお持ちいただきながら、ご覧いただければ、勝利にむかって進んでいく新しいエスパルスの全体像を感じていただけたらと思います。

皆様方には、新しいシーズンをともに戦う後押しをしていただきますよう、お願い申し上げます。ご挨拶いたします。

(1月24日、第80回常議員会での挨拶要旨)



清水エスパルス2017選手・監督

© S-PULSE



静岡商工会議所は清水エスパルスをサポートしています。